



**EARTH
FOOD
CREATOR**



サーキュラーエコノミー時代のビジネス 日清食品グループと循環型ビジネス

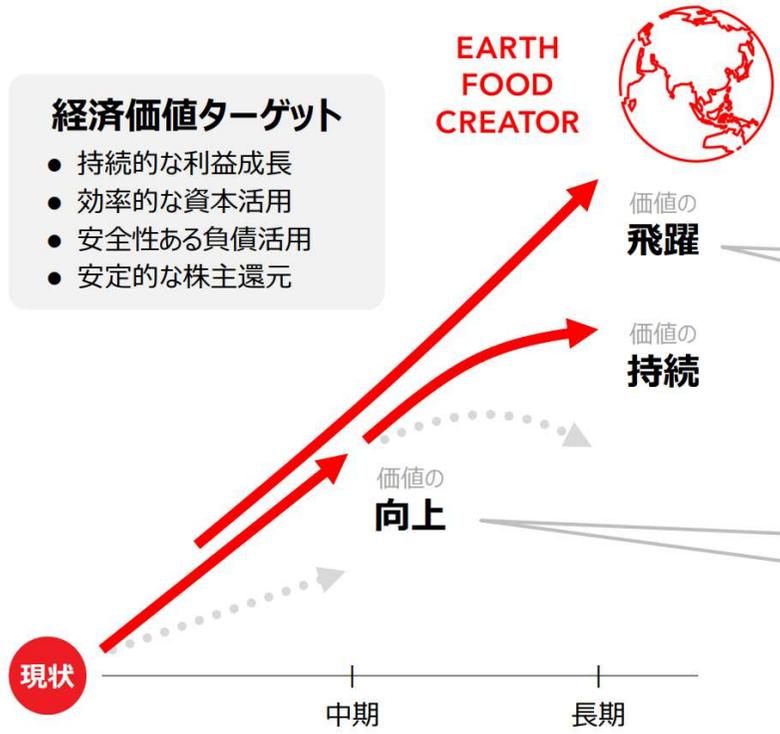
2023年3月10日

日清食品ホールディングス株式会社
取締役・CSO兼常務執行役員 横山 之雄

CSV経営における中長期成長ストーリー

ビジョンの実現と持続的成長に向け、3つの成長戦略テーマに取り組む。

ビジョン実現へのロードマップ



- 経済価値ターゲット**
- 持続的な利益成長
 - 効率的な資本活用
 - 安全性ある負債活用
 - 安定的な株主還元

3つの成長戦略テーマ 食 足 世 平 食 創 為 世 美 健 賢 食 食 為 聖 職

↑ 人 においしい、 🏠 社会 においしい、 🌍 地球 においしい。

環境戦略！

3

新規事業の推進
 フードサイエンスとの共創による“未来の食”
 テクノロジーによる
 食と健康のソリューション企業へ

事業／顧客基盤や成長資金を活用

1

既存事業のキャッシュ創出力強化
 海外＋非即席めん事業のアグレッシブな
 成長により利益ポートフォリオを大きく
 シフトさせながら持続的成長を追求する

2

EARTH FOOD CHALLENGE 2030
 有限資源の有効活用と
 気候変動インパクト軽減
 へのチャレンジ

Food Tech Innovation



**EARTH FOOD
CHALLENGE
2030**
地球のために。未来のために。



Earth
Material
Challenge

資源の有効活用へのチャレンジ

地球に優しい調達



持続可能な
パーム油調達比率
100%

地球資源の節約



水の使用
12.3m³/売上百万円

ごみの無い地球



生産過程の再資源化率
99.5%以上
販売・流通過程の廃棄物
半減 *日本の実績が対象

Green
Food
Challenge

気候変動問題へのチャレンジ



グリーンな電力で作る



SCOPE1+2
▲30%
(対2018年比)

グリーンな食材を使う



SCOPE3
▲15%
(対2018年比)

グリーンな包材で届ける



SCOPE3
▲15%
(対2018年比)

EFC2030における資源循環への取り組み



EARTH FOOD
CHALLENGE
2030

地球のために。未来のために。



容器包装



食品



エネルギー



物流

容器包装への取り組み

カップヌードルの容器包装は、石化由来プラスチック削減に向け、「減らす」「繰り返し使う」「無くす」形へ。



- 1 フタ止めシールの廃止
⇒カップ部分のプラ使用量を「減らす」

年間約33tのプラ削減



- 2 リフィルシリーズ
⇒カップ部分を「繰り返し使う」
(または、家庭の容器で食べる)

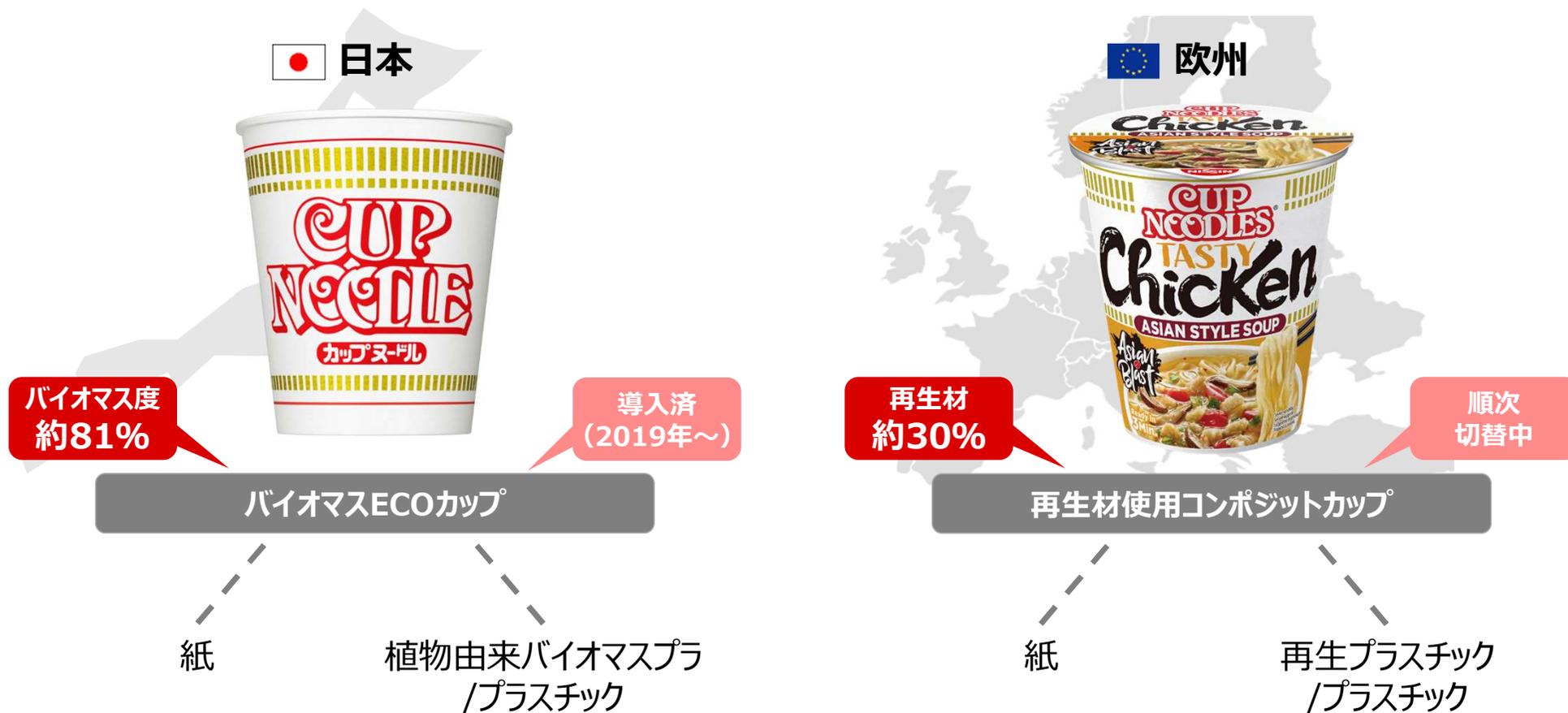


- 3 お椀で食べるカップヌードル
⇒カップ部分を「無くす」
⇒食品と容器の「デカップリング」



容器包装への取り組み

各国の文化、法規、環境方針、ごみ廃棄ルールなどを考慮しながら、最適な容器包装を採用している。欧州では再生プラスチックを活用した容器をさらに資源循環させるモデルに転換を進めている。



食品廃棄物への取り組み

即席めん製造時の廃油を持続可能な航空燃料（SAF）に変換。業界の垣根を超えて国産SAF燃料の商用化を目指すAct For Skyの取り組みに参画している。



即席めんを揚げた後の廃油（パーム油）

持続可能な航空燃料

SAF : Sustainable Aviation Fuel

化石由来ではないものを原料とする航空燃料を指す。
従来の航空燃料よりもCO2排出量を大幅に低減することが可能。
日清食品は即席めんを製造する際の廃油（植物油）を提供。
廃油は不純物を取り除いたあと、水素化処理を行って燃料化。

国産SAFの商用化と普及・拡大
をめざす企業・自治体の連携組織



* Act For Sky ホームページ (<https://actforsky.jp/>)

エネルギーへの取り組み

タイ日清では、2021～2022年度にかけて工場全体に太陽光発電システムを導入し、最大瞬時値で工場全体のピークデマンドに到達可能な太陽光発電規模を目指している。



(参考) 太陽光発電の設置状況

自家消費

- the WAVE
- 日清食品 滋賀工場
- ぼんち 山形工場
- 香港日清 香港工場・永南工場・永安工場
- 永南食品 永泰工場
- 浙江日清食品
- 福建日清食品
- タイ日清
- メキシコ日清 レルマ工場

EC売電

- ぼんち 神戸工場
- 浙江日清食品
- 福建日清食品

タイ日清 工場全景

- 約4,000枚の太陽光パネルを設置
- 工場使用電力のうち、最大約30%を補完
- 最大瞬間値で工場全体のピークデマンドに到達可能な発電規模
- 工場建屋以外の施設（駐輪場等）にも満遍なく配置

物流への取り組み

2019年より、物流効率化・CO2使用量削減に向け、自社の軽量貨物と他社の重量貨物を組み合わせた製品の共同輸送を開始している。

日本通運、アサヒ飲料、日清食品の3社で、
トラック積載率向上に向けた**共同輸送モデル**を確立



共同輸送トラック



関東～九州間トラック使用台数

20%削減

CO2排出量

10%削減 (見込み)

日清食品グループのカーボンニュートラル宣言

持続可能な社会に向けた日清食品グループの新たな挑戦！

「ネイチャーポジティブ」を推進し、2050年「カーボンニュートラル」を目指す

生物多様性を回復させながら、CO₂排出量を“プラスマイナスゼロ”に

日清食品グループは、2020年4月に策定した環境戦略「EARTH FOOD CHALLENGE 2030」においてCO₂排出量の削減目標を定め、再生可能エネルギーの使用をはじめとした取り組みを進めています。

近年、企業におけるCO₂排出量削減の取り組みは、サプライチェーン全体を巻き込んで強化していくことが求められています。また、生物多様性が重視される中、「ネイチャーポジティブ」は「カーボンニュートラル」に続く国際的なテーマとして、次の世界目標に位置づけられようとしています。

日清食品グループは、商品に使用する植物性食品*1の割合を拡大するなど、原材料に関する環境負荷の低減や、生産工程で廃棄される食材のアップサイクル*2による資源の有効活用、即席麺の製造に使用するパーム油の生産地における森林再生活動*3など、「ネイチャーポジティブ」に向けたさまざまな活動に取り組み、2050年までにCO₂排出量を実質ゼロにする「カーボンニュートラル」の達成を目指すことを宣言します。

日清食品グループは、気候変動対策に加え、生物多様性の保全と回復を重要な経営課題に位置づけ、これからも持続可能な社会の実現に努めていきます。

*1 植物に由来する食品で、穀類、芋、豆、野菜、キノコ、果実、海藻類や、それらを加工した食品のこと。動物に由来する食品に比べ、生産過程での環境負荷が少ないといわれている。

*2 本来捨てられるはずだった物に新たな付加価値を与え、別の物として再利用すること。

*3 森林破壊や森林伐採により減少しつつある森と林を、森に光を入れるための間伐や、林木育苗や植林などを通じて意図的に回復させること。

参考) ネイチャーポジティブとカーボンニュートラルの関係性

ネイチャーポジティブの推進は、生物多様性の保全だけでなくCO₂の削減・吸収に大きく繋がる。

*Nature
Positive*



*Carbon
Neutral*

ネイチャーポジティブ
への貢献効果

農林水産業に
依存する食品企業は
特に取り組み可能な
領域が大きい

(森林保全・管理により)
天然林が健やかに成長する

(植林により)
森林面積が増加する

(再生農業・カーボンファーム^{*1}により)
土壌が回復する

カーボンニュートラル
への貢献効果

森林がより多くのCO₂を吸収する

地面により多くのCO₂を蓄積する

*1:カーボンファームとは、気候変動を緩和する目的で、農場レベルで炭素貯留、フロー、GHGフラックス（単位時間当たり単位面積から大気中に入り出る炭素の量）を管理する農業の仕組みを指す

ネイチャーポジティブへのロードマップ

ネイチャーポジティブ実現に向けた戦略の中にも、「アップサイクル原材料」の使用や「容器包材のプラスチック使用量削減」など、循環型ビジネスに関連する施策が盛り込まれている。



*1：森林リスク商品とは、世界的に取引されており、森林減少の原因となる商品および原材料を指す。
 *2：再生型農業とは、土壌とその生態系を保全・回復しながら農業を行うモデルを指す。
 *3：再生型水産養殖とは、海水資源や淡水資源を回復させながら養殖を行うモデルを指す。

循環型ビジネスに向けたさらなる取り組み

食品に関しては、原材料選定から循環型のモデルを目指し、アップサイクル食品の活用を進める。容器は、CLOMAにおいて業界横断でプラ資源循環に向けた仕組みづくりに取り組む。

食品 アップサイクル食品の活用

アップサイクル

本来捨てられるはずのモノに新たな付加価値を与えて再利用すること

アップサイクル原材料の例



容器 CLOMAでのプラ資源循環



クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス
Japan Clean Ocean Material Alliance

- プラスチック製品の持続可能な使用や代替素材開発に取り組む官民連携組織
- 日清食品は2019年より幹事企業として参画
- プラスチックごみ削減に向けて、業界横断で様々な実証実験・取り組みを推進

今後、課題であるプラごみの「回収」モデルをさらに模索

カーボンニュートラル・ネイチャーポジティブ
実現に向け、
日清食品の資源循環へのチャレンジは続く...

